

講義科目名称： 教育の方法・技術

授業コード： C125A C125B

英文科目名称： Educational Method and Technology

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2 年	2単位 (0-2)	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
佐久本 邦華			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3232151		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 保育・教育現場におけるICT活用の実際を知り、ツールを使うことを通してICT活用の可能性について学ぶ。また、子どもたちの学びを深めるためのICT活用についても考える。 【到達目標】 ①知識・理解の観点：保育・教育現場におけるICTの活用について学ぶ。また、子どもたちの資質・能力を育むための活用法について理解する。 ②技能の観点：保育者として必要なICT活用の技能を習得する。幼児の発達段階をふまえ、子どもたちの学びを深めるICTを用いた活動を構想し、実践することができる。 ③態度の観点：ICT活用技能を習得するため、積極的に製作活動、課題、発表に取り組む。		
授業の概要	ワープロソフトやプレゼンテーションソフトの基本的操作技術を確認する。またデジカメなどの周辺機器を用いて、視覚性に富んだ保育資料を製作する応用力を身につける。一方で保育・教育現場におけるICT活用の実際を知り、その利点と問題点について理解する。最後に、子どもたちの学びを深めるためのICT活用について考える。		
授業計画	第1回 講義概要説明、幼稚園教育・保育所保育における「教育方法と技術」とは何か ・講義内容と評価方法（ルーブリック）を示す。 ・保育・教育現場におけるICT活用の実際（ポートフォリオやドキュメンテーション等）について知る。 ・なぜ保育者にICTを活用する能力が求められているのかを理解する。 ・幼稚園教育要領に記されている、幼児期にICTを活用する際に考慮することは何かを確認する。 【事前学習】 Teams掲示のシラバス等を確認し、分からない用語を調べておく。（2時間） 【事後学習】 振り返りレポートの提出。（2時間） 第2回 教育技術について（情報機器及び教材の活用） ・教育方法や情報機器を有効に活用しながら教材作成の技術・技能を習得する意識を高める。 ・初等教育現場の各種教育メディア（白板・電子黒板、印刷教材、絵本・紙芝居、視聴覚教材、教材教具、インターネット教材等）の教育効果を理解を高める。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。（2時間） 【事後学習】 振り返りレポートの提出。（2時間） 第3回 大学内の情報教育メディアの整備状況、利用可能なソフト、利用技術について ・PC環境について学ぶ ・パソコンリテラシーと情報倫理を学ぶ（データ保存、著作権について等） 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。（2時間） 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。（2時間） 第4回 ICT機器活用：ワープロソフト① 基本的な文書の作成 ・Wordソフトを用いた簡単な園だよりを作成することを通して、Wordソフトの基本技術を再確認する。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。（2時間） 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。（2時間） 第5回 ICT機器活用：ワープロソフト② 視覚性に富んだ文書の作成 ・段組み機能や表機能などを用い、見やすいレイアウトについて考え、文書を作成する。 ・情報倫理を確認しながら、フリー素材集の活用方法について学び、視覚性に富んだ文書を作成する。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。（2時間） 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。（2時間） 第6回 ICT機器活用：ワープロソフト③ 応用機能を用いた文書の作成 ・ワードアートやスマートアート機能などを用い、やや複雑なレイアウトの文書を作成する。 ・情報倫理を確認しながら、フリー素材集の活用方法について学び、視覚性に富んだ文書を作成する。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。（2時間） 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。（2時間） 第7回 ICT機器活用：ワープロソフト④ 様々なレイアウトの文書の作成 ・園だより、行事のおたより、カードなど、園で実際に使用される様々なサイズやレイアウトの文書を作成し、応用力を身につける。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。（2時間） 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。（2時間） 第8回 ICT機器活用：プレゼンテーションソフト① 基本的な機能の確認 ・基本的なプレゼンテーションの機能を確認し課題に取り組む。 ・ページの切替え、背景色の変更、文字の挿入、イラストの挿入、アニメーションの挿入など。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。（2時間） 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。（2時間） 第9回 ICT機器活用：プレゼンテーションソフト② 応用機能を学ぶ ・プレゼンテーションの機能を確認しながら課題に取り組む。 ・基本的な機能に加え、表やグラフの挿入について学ぶ。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。（2時間）		

	【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。(2時間) 第10回 ICT機器活用：プレゼンテーションソフト③ 視認性に富んだプレゼンテーションを作成する ・これまでに学んだ機能を使いながら、視認性に富んだ、見やすいプレゼンテーションについて考え作成する。 ・ページの切替え、背景色の変更、文字の挿入、イラストの挿入、アニメーションの挿入、表やグラフの挿入。その他学んだ技術を積極的に用い修得する。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。(2時間) 第11回 ICT機器活用：オリジナルプレゼン資料①素材作成 ・グループワークを通し、視認性の高い、効果的なオリジナルプレゼンテーション資料を作る。 ・内容を決め、作業手順や工程を撮影し、画像素材を揃える。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 講義を通して学んだこと、気づいたことについてまとめる。(2時間) 第12回 ICT機器活用：オリジナルプレゼン資料②資料作成 ・引き続きオリジナルプレゼンテーション資料を仕上げる。 ・デジカメや各自携帯電話で撮影した写真をクラウドへ保存し活用する方法を身につける。 ・アニメーション効果等をつけ、伝わりやすいプレゼンテーション資料を作成する。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 講義を通して学んだこと、気づいたことについてまとめる。(2時間) 第13回 ICT機器活用：オリジナルプレゼン資料③鑑賞 ・最終発表を行い、お互いに鑑賞会をもつ。 ・それぞれの学生の作品や発表の良い点、改善点についてまとめる。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 講義を通して学んだこと、気づいたことについてまとめる。(2時間) 第14回 保育・教育現場における「教育方法と技術」とは何か ・ポートフォリオやドキュメンテーション等のICTを活用した保育記録が保護者と保育者の情報共有の有効なツールである同時に、保育者の幼児理解を深める手助けとなることについて理解を深める。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 講義を通して学んだこと、気づいたことについてまとめる。(2時間) 第15回 保育教育現場におけるICT活用について まとめ ・子どもたちの学びを深めるためのICT活用にはどのようなものがあるか、また現場で用いる際の留意点とは何かについて、気づいたことや学んだことをまとめる。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 最終レポートの提出。(2時間) 第16回 なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018年 その他適宜紹介
評価方法	課題および提出状況 (60%) 振り返り小レポート・最終レポート (40%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足 ※ 遠隔授業の場合も同様に行う。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【 】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	授業回に応じて資料を配付するのでファイルを準備し資料を管理すること。（一度配布した資料は二度は配付しない）
オフィスアワー	毎週●曜日●限目：佐久本研究室（北研2-1）
課題に対するフィードバック方法	Microsoft Teams等を用いてフィードバックを行う。

講義科目名称： 幼児理解と教育相談

授業コード： C144A C144B

英文科目名称： Infant Understanding and Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年次	2単位 (0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
大城 りえ			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3232191		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 幼児理解と教育相談の理論及び方法 【到達目標】 知識・理解の観点：幼児理解についての知識を身につけ、子どもを理解する方法を理解することができる。また、教育相談の意義を理解し、カウンセリングに関する基礎的知識を理解する。 技能の観点：幼児理解や教育相談の事例検討やグループ討議を通して、保育者として具体的な関わりや支援方法を考えることができる。 態度の観点：子どもや保護者に寄り添う態度を養い、具体的な関わり方や支援方法を考えられるようになるため、事例検討やグループ討議に積極的に取り組む。		
授業の概要	①幼児理解のための発達理論と子どもを理解する方法（観察と記録）について学ぶ。 ②教育相談の意義、カウンセリングに関する基礎的知識（受容・傾聴・共感的理解）を理解し、子どもや保護者への態度を身につける。 ③幼児理解と教育相談の理論を踏まえ、個と集団のかかわり、いじめ、不登園、虐待等について、事例検討やグループ討議を通して具体的な関わりや支援方法について考察する。 ④職員間の連携・協働や地域の関係機関との連携について理解する。		
授業計画	第1回 講義概要説明、幼児理解と教育相談を学ぶ意義について 幼児理解と教育相談を学ぶ意義を理解する。 【事前学習】教育相談について調べる。(2時間) 【事後学習】幼児理解と教育相談を学ぶ意義について、まとめる。(2時間) 第2回 子ども理解と発達理論について 子どもを理解するための発達理論を理解する。 【事前学習】「発達心理学」で学んだ感情・認知・自己の発達を振り返り、ノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】発達理論をまとめる。(2時間) 第3回 観察・記録の方法と子ども理解の視点 子ども理解のための観察の重要性と記録の方法を理解する。 【事前学習】配布資料（当事者記録・第三者記録）を読み、ポイントをまとめる。(2時間) 【事後学習】子ども理解の方法（観察と記録）についてまとめる。(2時間) 第4回 気になる子と友達の関わり方（個と集団をとらえる視点）について 気になる子と友達への関わり方を、個と集団をとらえる視点を通して理解する。 【事前学習】配布資料を読み、子ども同士の関わり方を考える。(2時間) 【事後学習】個と集団をとらえる視点についてまとめる。(2時間) 第5回 カウンセリングに関する理論（来談者中心療法・精神分析・行動理論）について 来談者中心療法・精神分析・行動理論を理解する。 【事前学習】来談者中心療法・精神分析・行動理論について調べる。(2時間) 【事後学習】カウンセリングに関する理論についてまとめる。(2時間) 第6回 カウンセリングの基本（受容・傾聴・共感的理解）について カウンセリングの基本（受容・傾聴・共感的理解）を理解する。 【事前学習】第5回のカウンセリング理論について振り返る。(2時間) 【事後学習】カウンセリングの基本についてまとめる。(2時間) 第7回 カウンセリングの技法（非言語的コミュニケーション技法・傾聴実習）について カウンセリングの技法（非言語的コミュニケーション技法・傾聴実習）を理解する（ロールプレイ）。 【事前学習】第6回の授業内容を振り返る。(2時間) 【事後学習】カウンセリングの技法について、ロールプレイで感じたことをまとめる。(2時間) 第8回 教育相談の進め方（目標の立て方・記録・職員間連携など）について 教育相談の進め方（目標の立て方・記録・職員間連携など）について学ぶ。 【事前学習】教育相談を行う際の目標の立て方や職員間連携について考える。(2時間) 【事後学習】教育相談の進め方のポイントをまとめる。(2時間) 第9回 事例検討：発達の遅れ・発達障がいのある子への支援について 事例を通して、発達の遅れ・発達障がいのある子への支援方法を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。(2時間) 【事後学習】発達の遅れがある子への支援方法について、ポイントをまとめる。(2時間) 第10回 事例検討：問題行動への対応について 事例を通して、子どもの問題行動への支援方法を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。(2時間) 【事後学習】問題行動への対応について、ポイントをまとめる。(2時間) 第11回 事例検討：登園しぶりへの対応について 事例を通して、登園しぶりへの対応を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。(2時間) 【事後学習】支援方法について、ポイントをまとめる。(2時間) 第12回 事例検討：いじめへの対応について 事例を通して、いじめへの対応を学ぶ（グループ討議）。		

	【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。（2時間） 【事後学習】いじめへの対応について、ポイントをまとめる。（2時間） 第13回 事例検討：虐待への対応について 事例を通して、虐待への対応を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。（2時間） 【事後学習】虐待への対応について、ポイントをまとめる。（2時間） 第14回 事例検討：気になる保護者への対応について 事例を通して、気になる保護者への対応を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。（2時間） 【事後学習】気になる保護者への対応について、ポイントをまとめる。（2時間） 第15回 家庭や専門機関との連携について 家庭や専門機関との連携・協働について理解する。 【事前学習】家庭や専門機関との連携・協働について、これまでの事例から振り返る。（2時間） 【事後学習】家庭や専門機関との連携・協働のポイントをまとめる。（2時間） 第16回 なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】
テキスト	資料を担当者が準備します。
参考書	大野精一（編） 2017年 『教師・保育者のための教育相談』 萌文書林 青木久子・間藤侑・河邊貴子 2015年 『子ども理解とカウンセリングマインド』 萌文書林 小林育子 2017年 『演習 保育相談支援』 萌文書林 大竹直子 2014年 『やさしく学べる 保育カウンセリング』 金子書房 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
評価方法	小テスト40%、事例検討への参加度35%、授業内レポート15%、受講態度10%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックにも変更あり。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【 】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	事例検討では、事前に事例を読み、支援方法について考え授業に臨むこと。
オフィスアワー	毎週 曜日 限目 西研3-7大城研究室
課題に対するフィードバック方法	小テストおよび授業内レポートは、授業内で返却します。